

題字
大島文雄先生

人文

じんぶん



「あなるまっち」の皆さん

ヘルン文庫が多くのの人々に支えられて

理事・副学長 酒井秀紀…p 2

ヘルン文庫が富山に来て100周年記念フォーラム …p 3

写真で見る富山大学の今と昔～「学生会館」～ ……p 3

昭和51年度文理学部文学科入学者同期会の試みを終えて

甲斐勝二（中国文学昭和55年卒）…p 4

研究室から／人文地理学 教授 大西宏治…p 4

富山大学ホームカミングデーに人文学部生登壇 ……p 5

三大学統合20周年記念シンポジウム等 ……p 5

2024年度 学位記授与式 ……p 5

研究室から／言語学 ……教授 安藤智子…p 5

卒業生進路状況 ……p 6

第10回 人文学部のあゆみ ……准教授 入江幸二…p 7

新刊案内、会費の納入状況、現況通知等の方法について ……p 7

同窓会総会、人文の集い ……p 8

異動・訃報 ……p 8

総会記念講演

こんにちは。現役の人文学部生です

高橋 冴 氏(社会文化コース人文地理学分野4年生)

2022年に入学した私は、今年で4年生となります。気がついてみればあっという間の3年間でした。いつしか、学生団体を立ち上げ、大学祭や同窓会で講演を依頼されるように。

私の現在の活動の原点は大学の授業でもあります。所属する人文地理学コース必修のフィールドワークに限らず、これまで大学を飛び出して貪欲に学びを重ね、アウトプットとして「あなるまっち」という団体を立ち上げて、シニアと学生の交流環境構築を行っております。

「あなるまっち」の代表を務めているながらも、私が最も楽しみにしていることは、友人との飲み会です。自分の大学時代とは違うと社会人からは言われがちですが、意外と大差ないかもしれません。そんな令和のリアルな大学生の話をお聞きませんか？ (会場日時等はp 8をご覧ください。)

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話：(076) 445-6143

FAX：(076) 445-6142

E-mail：alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp



ヘルン文庫が多くの人々に支えられて

理事・副学長 酒井 秀紀



ヘルン文庫は、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧蔵書であり、本学の前身校である旧制富山高等学校に一九二四年（大正十三年）に開設されました。これらの蔵書を寄贈した馬場はる氏は、その功績により同年、紺綬褒章を受章されました。ヘルン文庫は富山大学の宝であるのみならず、世界の至宝といえるほど貴重です。

私が本学附属図書館長を務めたこの二年間、ヘルン文庫に関連する記念イベントの企画・運営に携わりました。二〇二四年、ヘルン文庫は開設百周年を迎え、本学はこれまでヘルン文庫を支

えてくださった皆様への感謝の意を込め、十一月二日(土)に五福キャンパス黒田講堂にて「感謝祭」を開催しました。感謝祭には、教職員、学生、市民の方々など約三百名が参加しました。感謝祭では、齋藤学長から開会の挨拶の中で、小泉家や馬場家をはじめ、多くの方のご支援に感謝の言葉がありました。続いて人文学部の中島教授からヘルン文庫の説明があり、参加者は小泉八雲の足跡やヘルン文庫について理解を深めました。さらに、富山八雲会の中尾哲雄会長よりご自身のヘルン文庫との出会いから現在までの思いや将来に対しての期待についてお話がありました。引き続き、私（酒井）自身が経験した「八雲先生を意識する不思議な出会い・出来事」についてお話し、学術コンテンツ課の三名の職員が、八雲先生やヘルン文庫に纏わる興味深いエピソードを紹介しました。その後、旧制富山高

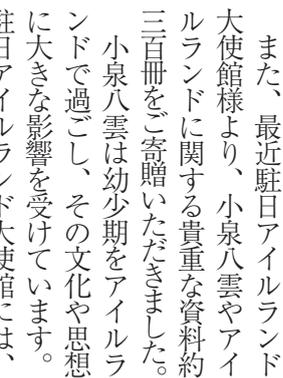
等学校初代校長である南日恒太郎先生の旧蔵書をご寄贈いただいた南日賢様に対し、学長から感謝状の贈呈が行われました。メインイベントとして、小泉八雲記念館（松江市）の館長であり、小泉八雲の曾孫である小泉凡先生による記念講演「現代に生きる小泉八雲と怪談文学」が行われました。小泉八雲の思いや時代を超えて人々に影響を与え続ける八雲の作品について語られ、参加者は八雲先生に思いを馳せました。続いて、重原佐千子アナウンサーから「雪女（八雲作）」の情感あふれる朗読があり、さらに富山八雲会の皆様による英語・日本語の両方を用いた紙芝居「むじな（八雲作）」が三味線演奏とともに熱演され、その迫力に参加者は魅了されました。

午後三時に始まった感謝祭は午後五時半に終了しました。外はすっかり暗くなっていましたが、参加者はその余韻に浸りながら会場を後にしました。

また、最近駐日アイルランド大使館様より、小泉八雲やアイルランドに関する貴重な資料約三百冊をご寄贈いただきました。小泉八雲は幼少期をアイルランドで過ごし、その文化や思想に大きな影響を受けています。駐日アイルランド大使館には、八雲の関連資料を所蔵するLafcadio Hearn Libraryがあり、本学ヘルン文庫との関係も深いものとなっています。これまでも大使がヘルン文庫を訪問されるなど、長く交流が続けてきました。このたび、大使館の移転に伴い、その貴重な資料の一部をお譲りいただきました。この寄贈を記念して、二〇二五

年三月二十八日(金)本学中央図書館において除幕式を開催しました。齋藤学長、富山八雲会の中尾会長にもご多忙の中ご出席いただき、式典は成功裡に終了しました。寄贈いただいた資料は、中央図書館一階ロビーと五階ヘルン文庫前に展示しており、図書館の開館時間にご覧いただけます。

以上のようなヘルン文庫関連のイベントを通じて、これまでの百年間の先人たちに対する深い感謝の気持ちを改めて抱くとともに、これからの百年に向けてヘルン文庫を大切に継承していくという強い決意を、加藤課長をはじめとする図書館スタッフ一同で新たにいたしました。本年秋から放送されるNHK朝の連続テレビ小説「ばけげん」は、小泉八雲の妻、小泉セツをモデルにした作品です。これを機に、ヘルン文庫がより多くの人々にとって身近な存在となることを願っています。



ヘルン文庫が富山に来て100周年 記念フォーラム

今年にはヘルン文庫が富山に来てから百周年の年でもあり、富山八雲会が主催して記念フォーラムが開催されました。昨年四月二十七日(土)、オーバードホール中ホールには多くの参加者が集いました。

まず、富山八雲会会長中尾哲雄氏が、映像をもとに旧制富山高等学校とヘルン文庫を紹介されました。

続いて、松江の小泉八雲記念館館長でヘルンの曾孫にあたる小泉凡氏の講演「小泉八雲、いまを生きる！」がありました。西洋中心主義でもなく、人間中心主義でもないオープンマインドで異なるものを排除しないハーロンの思想と、その現代における意味を語られました。

引き続き「小泉セツ・馬場はる 夢の！対談」が演じられました。NHKドラマ『日本の面影』で小泉セツを好演した壇ふみさんが小泉セツ役を、富山八雲会会員で人文学部同窓生でも

ある中崎圭子さんが馬場はるさん役となり、ラフカディオ・ハーンとヘルン文庫、そして富山について語り合いました。「耳なし芳二」の朗読もありました。

ヘルン文庫が富山に来て100周年記念フォーラム
壇ふみさんとともに 夢の！対談
小泉セツ・馬場はる
ヘルン文庫に託されたもの

2024年04月27日(土)
開演 13:30 開演 14:00-16:00
オーバード・ホール 中ホール

1 開会 富山八雲会会長 中尾哲雄
2 講演 映像で見る旧制富山高校とヘルン文庫
3 対談 ハーン役後 120年を越えて
4 フォーラム ヘルンさんから学ぶもの
5 閉会 富山八雲会会長 中尾哲雄

主催 富山八雲会
協賛 富山県教育委員会、NPO法人富山放送局、富山県立図書館、富山県立大学、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及

主催 富山八雲会
協賛 富山県教育委員会、NPO法人富山放送局、富山県立図書館、富山県立大学、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及

主催 富山八雲会
協賛 富山県教育委員会、NPO法人富山放送局、富山県立図書館、富山県立大学、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及、富山県立中央図書館「ヘルン文庫」の運営や普及

さらに紙芝居「若返りの泉」をお二人が読まれました。これはハーロンの「Japanese Fairy Tales」をもとにして富山八雲会が作成したものです。中崎さんがおじいさん役、壇さんがおばあさん役でした。

最後にフォーラム「ヘルンさんから学ぶもの」が開催され、パネリストは壇ふみさん、小泉凡さん、中尾哲雄さんでした。

和気藹々とした雰囲気の中、壇さんがドラマを演じた際の体験も語られました。近代化の中で失われていくものに目を凝らしたハーリンにあらためて思いを寄せました。

《ヘルン文庫について》
ヘルン文庫は日本を愛した文学者ラフカディオ・ハーン (Rafaelo Hearn, 一八五〇～一九〇四、日本名・小泉八雲)

の旧蔵書を中心としたもので、和漢書はセツ夫人の説明を通して、ハーロンの文学的創作の資料となつたものです。

同文庫は一九二四(大正十三)年、旧制富山高等学校の開学にあたり馬場はるさんが購入して同校に寄付され、現在は富山大学附属図書館の貴重なコレクションとなっています。

また、ヘルン文庫という名前がは最初に英語教師として赴任した松江中学校(島根県松江市)で「ヘルン先生」と呼ばれ、妻のセツさんからも「ヘルンさん」と呼ばれていたこと由来します。

写真で見る富山大学の今と昔～「学生会館」～



今も昔も富大生の憩いの場となっている「学生会館」。現在、学生支援センター、就職・キャリア支援センター、ホール、生協コンビニがあります。昔の学生会館の前庭に池がありました。富大祭前夜祭でザブーンと池に飛び込むのが恒例でしたよね？！

昭和五十一年度文学部文学科

入学者同期会の試みを終えて

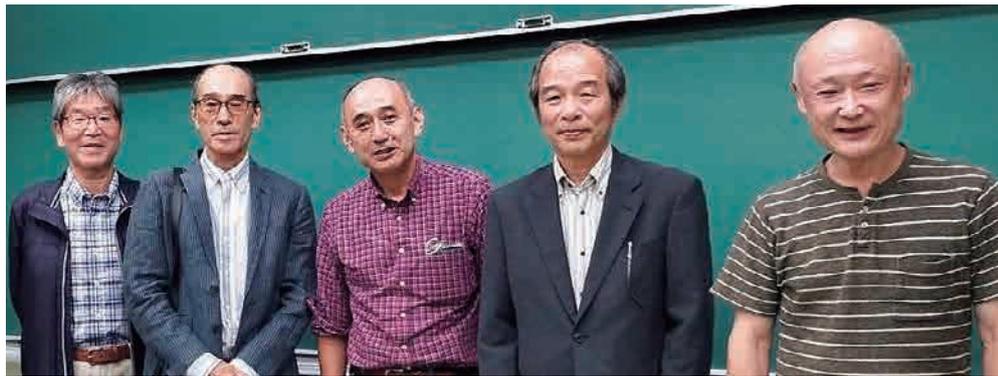
甲斐 勝二(中国文学 昭和55年卒)

加者を増やして行くのが良からう」という話に終わりましたが、果たして次があるかどうか。やるならもつと積極的な宣伝が必要な気がします。左の写真は参加者の現在です。さて、誰でしょう。(福岡市在住)

昨年十月十九日(土)、富大人文学部の教室内で人文学部の前身文学部文学科の昭和五十一年度入学者の集まりを試みました。皆六十五歳を超えて、一線から引く頃、昔の元気な頃を語り合つて、またひと頑張り、と考えたからです。もう騒ぐ年齢でもなからうと、余計な声かけはやめて、同窓会誌であるこの「人文」の昨年号に日時と場所を掲載し、それを見て来られる方が来れば良いということになりましたが、やはり宣伝不足なのでしよう、集まったのは五人にすぎませんでした。当時入学者数にくらべ微々たる数だと言わねばなりません。各専攻での同期会ならいざ知らず、教養部時代に外国語クラスで一緒になった程度なら、実際は、こんなものなのでしょう。宣伝をしなかったのは、相談に乗ってくれた同期の友人を巻き込むのを遠慮したからです

が、私自身もあれこれ動くのが面倒だったからでもあります。或いはと思ひ、専攻の違う五名の方に、同期会開催の計画の葉書を出してみたものの、返事があつたのは二人だけで、参加者はこれに準備の相談をした二人が加わつての五人です。それでも富山はもとより、福島・京都・大阪・福岡とあちこちからの参加で、今の話や昔の話、恩師やここに来ていない同期の友人の話題など、話はあれこれと盛り上がり、同窓会にお願いした二時間はあつという間に過ぎ、それではと、富山駅前での飲み会へと向かいました。

「大学時代の友人関係は、再開した瞬間に元に戻ることを実感しました。お互い頭髪は衰えても、昔のままの元気な姿で酒を酌み交わせた喜びは、何にも代え難いもの」というのが五人の気持ちです。集まりの少なさに「まあ、力まずに少しずつ参



(中央が筆者)

研究室から 行動・社会文化領域

社会文化コース
人文地理学分野

教授 大西 宏治

卒業生のみならず、お元気にお過ごしでしょうか？

まず、研究室の近況を報告させていただきます。少し前のことになりましたが、平成二十年三月に退職された浜谷正人先生は令和二年秋の叙勲で瑞宝中綬章を授章されました。お世話になった大学院の修了生や元教員で記念品を贈らせていただきました。



現在の研究室は、平成二十二年に着任された鈴木晃志郎准教授と大西の二名で運営しています。毎学年、十数名の学生が所属しており、女子学生がおよそ半数強となっております。今回、掲載している写真は令和六年度の学位記授与式のときのものです。ご覧になると雰囲気はわかりいただけると思います。

人文地理学では地理情報システムを活用することが当たり前となっております。二年生は鈴木先生が開講する地理空間情報科学実習を履修し、地理情報システムの活用を学んでいます。そのおかげなのか、卒業研究をみると内容と比べてとてもできのよい主題図がたく

さん掲載されるようになりました。令和六年一月に能登半島地震が発生し、富山県内にも被害が発生しました。そこで、研究室の二年生を中心に、県内の被災地域を訪問し、発災時に住民が何をし、何を思ったのか、復旧、復興に向けて思いなど、傾聴活動のボランティアをする形式でインタビューさせていただきました。本当に多くの方々に協力いただきました。県内の被災地域では、住民の流出も多く、建物被害などの物理的な被害以上に、地域社会の大きな変化を学生たちは感じ取っていました。三年生の調査実習では、毎年、富山県内の自治体を一カ所設定して、そこで調査を行い報告書にまとめるとも、調査地域に成果をお返しするために発表会を実施しています。令和四年度は砺波市、令和五年度は黒部市、令和六年度は射水市で実施し、今年(令和七年)は高岡市で実施する予定です。調査地にお住まいのみならず、温かい目で見守るとともに、ご協力のほど、よろしく願います。

最後に、ご活躍する卒業生のみならずの様子を知りたい、在学生にとって励みになりますし、教員にとってもとても嬉しいことです。みなさまの近況をお知らせいただきとともに、これからも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

富山大学ホームカミングデーシンポジウムに 人文学部生の高橋冨さん(人文地理)登壇



二〇二四 年十月二十七日(日)、富山大学ホームカミングデー(富山大学主催、経済学部同窓会越嶺会共催)が開催されました。シンポジウム『アントレプレナーシップを応援しよう!』では、人文学部から三年の高橋冨さんが「学生によるアウトプットとしての社会起業への挑戦」と題する事例発表を行いました。

高橋さんは高校で過疎問題に興味を持ち、人文地理学を学べる人文学部に入學し、行動することの大切さを痛感して、様々な活動に取り組みました。

信州大学・富山大学・金沢大学連携の「ENGINEインターシップ」を修了した際には収

2024年度 学位記授与式

二〇二五年三月二十五日(火)午前十時より富山市総合体育館で富山大学全学の学位記授与式が行われました。

午後一時よりホテルグランテラスで人文学部・大学院人文社会芸術総合研究科学位記授与式が始まりました。

各コースの代表に学位記が渡された後、大西宏治人文学部長の式辞、米原寛



午後二時半より同窓会主催の卒業祝賀会を開催しました。今年にはビンゴゲームを用意し、会場の皆さんは大いに楽しんでいました。

華やかな雰囲気の中、参加者達は友人や恩師と名残を惜しんでいました。

二〇二五年三月二十五日(火)午前十時より富山市総合体育館で富山大学全学の学位記授与式が行われました。

午後一時よりホテルグランテラスで人文学部・大学院人文社会芸術総合研究科学位記授与式が始まりました。

各コースの代表に学位記が渡された後、大西宏治人文学部長の式辞、米原寛

二〇二四 年十月二十七日(日)、富山大学ホームカミングデー(富山大学主催、経済学部同窓会越嶺会共催)が開催されました。シンポジウム『アントレプレナーシップを応援しよう!』では、人文学部から三年の高橋冨さんが「学生によるアウトプットとしての社会起業への挑戦」と題する事例発表を行いました。

高橋さんは高校で過疎問題に興味を持ち、人文地理学を学べる人文学部に入學し、行動することの大切さを痛感して、様々な活動に取り組みました。

信州大学・富山大学・金沢大学連携の「ENGINEインターシップ」を修了した際には収

二〇二五年三月二十五日(火)午前十時より富山市総合体育館で富山大学全学の学位記授与式が行われました。

午後一時よりホテルグランテラスで人文学部・大学院人文社会芸術総合研究科学位記授与式が始まりました。

各コースの代表に学位記が渡された後、大西宏治人文学部長の式辞、米原寛

二〇二五年三月二十五日(火)午前十時より富山市総合体育館で富山大学全学の学位記授与式が行われました。

午後一時よりホテルグランテラスで人文学部・大学院人文社会芸術総合研究科学位記授与式が始まりました。

各コースの代表に学位記が渡された後、大西宏治人文学部長の式辞、米原寛

三大学統合 20周年記念シンポジウム等

富山大学は二〇二五年十月一日(水)に三大学統合から二十周年を迎えます。五福キャンパスで記念シンポジウムと懇親会が予定されており、人文学部同窓会の皆様も奮ってご参加ください。

また、ホームカミングデーは十月二十五日(土)に開催されます。詳細はいずれも富山大学ホームページをご覧ください。

なお、二〇二五年度の富山大学同窓会連合会総会は七月十九日(土)に開催される予定です。

研究室 から 言語文化領域

言語学コース
教授 安藤 智子

浅井亨先生(アイヌ語学)と鈴木敏昭先生(心理言語学)のお二人により言語学コースが開設されたのは、一九八〇年と何っていません。その後、呉人恵先生(コリヤーク語学)と加藤重広先生(日本語学)のお二人になったところに、私(音韻論)が赴任しました。加藤先生が北海道大学に転任なさったのも、二〇〇五年には学部内の組織改編にもなつて湯川純幸先生(談話分析)、山崎けい子先生(日本語教育学)、さらに教育学部から樋野幸勇先生(日本語書記史)が加わつてくださり、一時は五名体制となりましたが、先生方の定年退職を見越し、二〇二一年度からはさらなる改編として森賀一恵先生(中国語学)、藤川勝也先生(英語学)に加わつていただきました。六名体制の一年を経て、現在は三名体制となつており、二〇二六年度から大きくリコースに再編された人文学部においては、教員数では最も小規模なコースの一つとなっています。

とはいえ、私の知る限りです



が、学生数は教員数に比して変動が小さく、少ない時で一学年九名程度、多い時で十五名程度が所属しています。時代が移り、教員の専門分野が変わっても、ことばに対する科学的関心が一定数の人を引きつけていることがうかがえます。やはり日本語に関心のある人が多いのですが、様々な外国語や手話など幅広く対象とし、文法から応用言語学的な側面まで、自主独立の精神で学びつつ研究を行っています。

コロナ禍には、どの分野も授業のあり方の変更を迫られました。と同時に、学ぶ仲間との関係にも変化が生じ、学年を超えた文化の継承が危ぶまれたこともありましたが、それでも、実験室の使い方や上級生が下級生に教えるという新学期的伝統は、工夫を重ねて継続しています。

また、近年では、過去の卒業論文を実験室で一括して保存するようになり、先輩方の力作が後輩たちにとつて大いに参考になるようになってきました。

私たちが卒業生の皆様と接する機会に限られ、なかなかご活躍の様子をうかがい知ることができませんが、二〇二四年度には、言語学コースの若き卒業生のお二人が人文学部の教務事務として勤務し、日々、学生や教員をサポートしてくださりました。こうした皆様のご活躍が、教員の励みとなっています。

卒業生進路状況

出典『人文学部案内2024』（富山大学人文学部）

人文学部 人気の就職先は？

トップは「公務」

富山大学人文学部でのさまざまな学びを通じ、「幅広い教養」と「深みのある専門的知識」を身につけて卒業した先輩たちは、とても多彩な就職先で活躍を続けています。

中でも人気なのは「公務」と「卸売・小売業」、「製造業」で、卒業生の3人に1人はこのいずれかの業種で就職をしています。幅広い知識だけでなく、とりわけ人文学部が重視する「さまざまな背景を持つ多様な人々とコミュニケーションをはかり、共に社会に貢献するチカラ」が求められる仕事だからこそ、卒業生たちが存分に能力を発揮でき、高い評価につながっています。

また、北陸地域の「人づくり」の拠点として、富山・石川をはじめとする「地元」の多くの企業に評価され、卒業生の半分近くが採用されていることも、富山大学人文学部の特長と言えるでしょう。

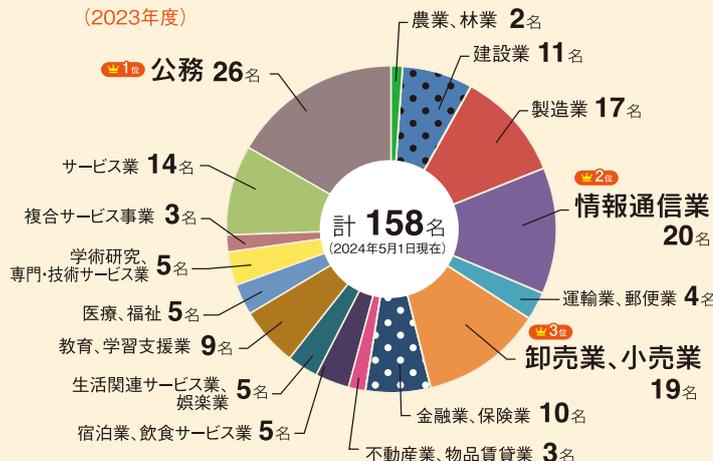
卒業生の就職先 トップ 3

(2019～2023年度)

- 1 **公務** 都道府県庁、市役所、区役所、町役場、警察、図書館、埋蔵文化財センター…
- 2 **卸売業、小売業** スーパーマーケット、デパート、書籍・衣料品・自動車・家電などの販売店…
- 3 **製造業** 食品、飲料、機械、医療品、印刷、電気・電子機器…

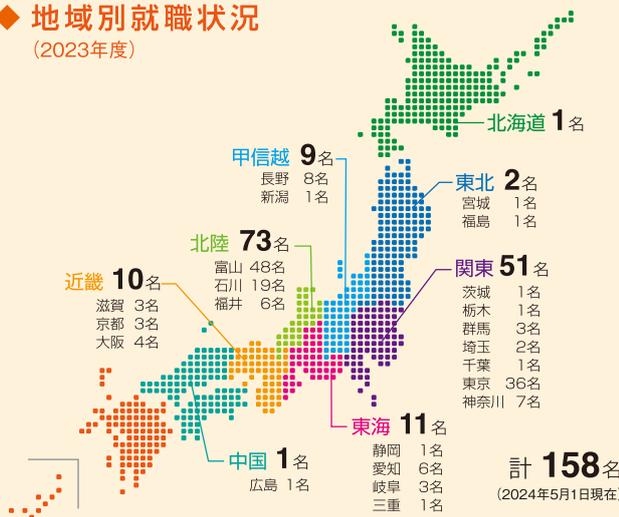
業種別状況

(2023年度)



地域別就職状況

(2023年度)



主な進路 (2019～2023年度)

公務

富山県庁
富山・高岡・射水・滑川・魚津市役所
入善・朝日・立山町役場
富山地方検察庁
石川・福井・長野・山梨・福島県・
京都府・北海道庁
金沢・関東信越国税局
金沢・長野市役所
富山労働局
気象庁
法務省 など

製造業

(株)不二越
(株)スギノマシン

三協立山(株)
YKKAP(株)
(株)村田製作所
日本食研ホールディングス(株) など

卸売業、小売業

アルピス(株)
(株)大阪屋ショップ
(株)メガネのハラダ
(株)クスリのアオキ
三谷商事(株) など

金融業、保険業

(株)北陸銀行
(株)富山銀行

(株)富山第一銀行
高岡・石動信用金庫
(株)北國銀行
(株)第四北越フィナンシャルグループ
みずほ銀行
明治安田生命保険相互会社
東京海上日動火災保険(株)
(株)八十二銀行 など

情報通信業

(株)ケーブルテレビ富山
(株)インテック
(株)北國新聞社
富山テレビ放送(株)
(株)チューリップテレビ
(株)北日本新聞社 など

その他の業種

教育、学習支援業
建設業
サービス業
医療、福祉
運輸業、郵便業
複合サービス事業 など

進学

富山大学大学院
東北大学大学院
名古屋大学大学院
大阪大学大学院
北海道大学大学院
九州大学大学院
奈良女子大学大学院 など

人文学部のあゆみ

第十回

「富山大学文学部跡」記念碑

富山大学准教授 入江 幸 二



旧制富山高等学校が本学人文学部・理学部の前身校であったことはこの連載でも何度か触れてきた。旧制高校の設立にあたり多大な資金援助をしていただいた馬場はる氏について、また馬場記念公園（蓮町公園）とそこに設置されている「馬場はる刀自」の銅像についてもよく知られるところであろう（詳しくは一九九五年刊行の『人文』第十七号所収の、本田弘同窓会会長（当時）の記事をお読みいただきたい）。過日、同窓会の方から今年には十年に一度の銅像の設置管理更新の年であると教えていただくとともに、同窓会がこの公園に設置した「富山大学文学部跡」記念碑に関する資料を見せていただく機会を得た。今回はこの資料と記念碑について紹介してみたい。

「富山大学文学部跡」記念碑は、一メートルほどの高さがある御影石製のものである。大

学創立四十周年記念として旧制高校・旧文学部があった同公園に置かれ（富山地鉄・富山港線の蓮町駅側の入り口からすぐの場所）、一九八九年九月二十三日に除幕式が開催された。黒い表紙の資料には、富山市に提出した「公園施設設置許可申請書」の写し、請求書や納品書、除幕式の式次第、製作会社への感謝状などが含まれる。それらを見ていくと、人文学部同窓会と理学部同窓会が協力して資金百万円を用意し、大島文雄名誉教授が表側の題字と裏側の碑文を揮毫したことが分かる。また本体は赤御影石、裏の碑文は黒御影石、台座には白御影石が貼られ縁が黒御影石で作られているこ

とや、四十五度に傾いた二本の腕がY字型に交差するデザインは「人文と理学の両学部がお互いに寄り添い合い未来に向かって飛翔して行く願いをこめ」たものだと図面に記されている。

筆者は当時大阪に住む大学生だったのですが、出来事は知る由もなかったが、記録が残るおかげで多少とも追体験することが可能である。記念碑やそこに記された思い、あるいは両学部がもたらしたことを今の学生もあまり知らないかもしれないが、教養科目「富山大学」では毎年受講生とともに同公園の記念碑も見学してきた。教養科目の改革により今年度が最後になるので、心して説明するとともに、機会があれば他の学生たちにも折に触れ伝えていきたいと思う。最後に、貴重な資料をお貸し下さった同窓会事務局にお礼申し上げます。



会費の納入状況

会費納入状況をお知らせいたします。令和6年6月から令和7年3月まで123名の方から125,000円の会費を納入していただきました。また16名の方から終身会費160,000円を納入していただきました。ご支援ご協力厚く御礼申し上げます。

現況通知等の方法について

同封ハガキの二次元コードから、ご住所の変更などの他、同窓会行事の申込み、ご意見ご要望などをメールでお送りいただけるようになります。

なお、同封ハガキを利用される場合は、恐れ入りますが切手を貼付してください。

新刊案内

人文学部ゆかりの方々の新刊を紹介します。

- 『アイスゆうえんち』のしやか（文化人類学平成13年卒）作、ニコモ、2022年7月刊
- 『ソール・ペロー都市空間と文学』日本ソール・ペロー協会編、大工原ちなみ（名誉教授）ほか執筆、彩流社、2022年2月刊
- 『とやま方言マニュアル：富山県内で働く外国人介護職員向け 介護現場でよく使う富山の方言47語+α』中井精一（名誉教授）監修、富山県厚生部厚生企画課、2022年3月刊
- 『地図で読み解く関西のことば』岸江信介・中井精一（名誉教授）編、昭和堂、2022年4月刊
- 『「日系」をめぐることばと文化 移動する人の創造性と多様性』松田真希子・中井精一（名誉教授）・坂本光代編、くろしお出版、2022年10月刊
- 『人文知のカレイドスコープ 富山大学人文学部叢書6』富山大学人文学部編、桂書房 2023年3月刊
- 『友』ベク・ナムリョン著、和田とも美（准教授）訳、小学館、2023年4月刊
- 『アウグスティヌス著作集 20巻Ⅱ 詩編注解6』アウグスティヌス著、松崎一平（名誉教授）ほか訳、京都大学学術出版会、2023年6月刊
- 『ユダヤ系アメリカ文学のすべて = JEWISH AMERICAN LITERATURE : 十九世紀から二十一世紀』日本ソール・ペロー協会編、大工原ちなみ（名誉教授）ほか執筆、小島遊書房、2023年9月刊
- 『銘菓薄氷とともに歩んだ笹川家』米原寛（史学昭和41年卒）執筆・監修、笹川武刊、2024年3月刊
- 『人文知のカレイドスコープ 2024富山大学人文学部叢書7』富山大学人文学部編、桂書房 2024年3月刊
- 『北太平洋の先住民文化：歴史・言語・社会』岸上伸啓編、呉人恵（名誉教授）ほか執筆、臨川書店、2024年3月刊
- 『食と伝統が息づくまち 氷見の人々が紡ぐもの（地域社会の文化人類学的調査 33）』藤本武（教授）・野澤豊一（准教授）編、富山大学人文学部文化人類学研究室刊、2024年3月刊
- 『気配』村田はるせ著、エディション・エフ、2024年5月刊、第17回北陸現代詩人賞奨励賞受賞
- 『妖怪と怨霊が動かした日本の歴史 なぜ日本人は祟りを怖れるのか』田中聡（文化構造論昭和60年卒）著、笠間書院（発売）、2024年8月刊
- 『リルを探してくれないか 津村健伝』齊藤大紀（教授）著、桂書房、2024年9月刊

報告 二〇二四年度 同窓会総会

二〇二四年度総会が、インターネットワーリービルで、七月十三日(土)に開催されました。

始めに同窓会名誉会長でもある大西宏治人文学部長及び、米原寛同窓会長が挨拶しました。その後議事に入り二〇二三年度事業報告、決算報告等が承認されました。二〇二三年度は総会、「人文の集い」とも対面で開催しました。卒業祝賀会は二〇一九年三月を最後に中止して

いましたが、久しぶりに開催し、今回初めて立食形式としました。次に二〇二四年度事業計画及び予算を原案通り承認しました。引き続き役員人事案を協議し、新たに廣瀬裕一理事が副会長に、中崎圭子理事が監事に、高波満里氏が理事に就任しました。さらに会則を改正し、富山大学全体で大学院が改組されことに伴う改正と、役員定員の変更を決定しました。

総会終了後、前富山県立図書館長 中崎圭子氏(中国文学昭和61年卒)による講演「ヘルン文庫のことなど」を拝聴しました。ヘルン文庫の『孺子歌圖』を卒業論文で取り上げた中崎さんは、ヘルン文庫への思いなどを語られました。



その後交流会を開催し、大西先生からは大学の現状や学生のリアルなお話もありました。

報告 第十二回 人文の集い

第11回「人文の集い」は、昨年十月十九日(土)、富山大学五福キャンパスの人文学部棟で開催され、講師は上越教育大学名誉教授廣瀬裕一氏(哲学昭和51年卒)でした。



「小、中、高、大の教員遍歴」の演題通りのご経歴で教育行政も経験された先生のお話は興味深く「小学生から現職教員まで生徒に深く関わればみな良いところがあり、それを引き出すのが教師の仕事の醍醐味である」とのお言葉に参加者一同深い感銘を受けました。

講演終了後、廣瀬講師、大西学部長を囲み、昼食交流会を開催しました。参加した学部生への励ましもあり、人文知の価値について力強いご意見もありました。

総会の記念講演は参加費無料で、どなたでも参加できます。「人文の集い」の講演も参加費無料で、どなたでも参加できます。昼食会の参加は富山大学関係者のみとなります。会費二千円(学生は五百円)です。

総会、人文の集いとも同窓会事務局へお申し込みください。同封ハガキの他、メール、電話FAXもご利用ください。多くの方のご参加をお待ちしています。

総会、人文の集いの他、理事会等の詳細は、人文学部同窓会ホームページをご覧ください。

第12回 「人文の集い」のご案内

日時 2025年10月18日(土)
講演 10:00~ 於第1講義室
昼食会 11:50~ 於第2講義室
会場 富山大学人文学部1階
講演:「ツンドラのエコロジー: トナカイ遊牧民コリヤークの世界観・動物資源観」
講師: 北海道立北方民族博物館・館長 呉人 恵 氏

2025年度 総会のご案内

日時 2025年7月12日(土)
総会 13:30~ 講演会 14:40~
交流会 16:00~
会場 富山大学人文学部第1講義室
講演:「こんにちは。現役の人文学部生です」
講師: 人文学部4年 高橋 冨 氏
(社会文化コース人文地理学分野)

人文学部教員異動

- 退職(令和7年3月)
 - 徳永洋介(東洋史)教授
 - 赤尾干波(アメリカ言語文化)教授
 - 恒川正巳(イギリス言語文化)教授
 - 転出(令和7年3月)
 - 黒川光流(心理学)准教授
- 伊藤智樹(社会学)教授 採用(令和7年4月)
- 高城隆一(日本語文化)講師
- 福島亮(フランス言語文化)講師

一 訃 報

- 謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 五十嵐教海 (国文学及び中国文学 昭和34年卒) 平成28年2月ご逝去
 - 河合(佐々木)玲子(英文学 昭和35年卒) 令和元年12月20日ご逝去
 - 櫻谷 重男(ドイツ文学 昭和30年卒) 令和2年ご逝去
 - 菅野(朝倉)和子(英文学 昭和31年卒) 令和6年3月6日ご逝去
 - 廣瀬 捷負(英文学 昭和36年卒) 令和6年4月ご逝去
 - 福田 立明(教授 アメリカ言語文化) 令和6年9月1日ご逝去
 - 前田千登世(国文学 昭和62年卒) 令和4年12月5日ご逝去
 - 山口(岡崎)文枝(国文学 昭和38年卒) 令和6年3月25日ご逝去

編集委員

- 田中 史子 谷口 恵子
- 成瀬裕美子 高波 満里